

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- ① 「地域に開かれた学校」を発展させ、保護者や地域の方が学校づくりに主体的に参画し、「地域とともに生徒を育てる学校」の実現を目指します。
- ② より実効性のある学校関係者評価を実現し、教育活動を改善します。
- ③ 保護者や地域の方が、学校の教育活動に積極的に関わることを通して、相互理解を深めたコミュニティスクールを推進します。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

（1）教育活動の実践事例

【浜田地区青少年を守る会との共催事業】

5月18日（土）フォトジャーナリストの安田菜津紀さんを招聘し講演会を開催しました。16歳の時にカンボジアへ派遣された時に出会った家族や子どもたちから学んだ家族愛や相手を敬うことに感銘して以来フォトジャーナリストの道を志願し、何年間もカンボジア、シリア、ウガンダに通い、現地の様子を写真に収め、広く世界に伝える役割を果たしているとのことでした。

講演会「紛争地、被災地に生きる子どもたち～取材から見てきたこと～」では、多くの写真を見せていただきながら、戦争時の悲惨さだけでなく、戦争後何十年も続く復興までの道のりの厳しさなどについて、会場のすべて人の心に深く響く語りでした。

紹介していただいた写真には、「笑顔あふれる子どもたちの姿」「人身売買により親から引き離されながらも、自分のことよりも親のことを想う子どもたちの姿」「戦争や内戦により、破壊された町並み」「様々な種類の地雷」「地雷で手足を失っても懸命に働いている人々の姿」などが披露されました。

全員が真剣に話を聴き、積極的に質問をしてくれた生徒が何人もいました。さらに参加していただいた数十名の地域の方からの熱心な質問もありました。



本校では、定期試験発表中の登校時と下校時に教員の登下校指導に加え、生徒会本部や規律安全



委員による「あいさつ運動」を実施しています。
同時にあいさつ運動期間中に、保護者の方にも加
わってもらっています。

【花いっぱい運動】

本校の花いっぱい運動は、25年以上も続く伝統活動です。毎学期、学年ごとで行っ
ています。プランターや地下植えされた花は、校舎周辺に設置し、生徒だけでなく、来
校される保護者・地域の皆さんに、やすらぎを与えています。

近年は保護者も協力していただきながら、環境美化活動を推進しています。また、そ
の一部を、JR四日市駅に寄贈しています。



【阿瀬知川清掃（地域清掃）】

6月の土曜活動として、生徒会の専門委員会の一つである福祉委員と有志生徒により、
校区内を流れる阿瀬知川周辺の清掃を行いました。この活動は平成13年より続く活動
です。かつては地域の「阿瀬知川を美しくする会」が中心となり、その取り組みに協力
する形の活動でしたが、これまでの活動を引き継ぐ形で、自治会と連合地協の協力を得
て清掃活動を行いました。

今年度は、長年の取組実績を評価され、公益社団法人食品容器環境美化協会より、優
良校として表彰されました。今後も地域の環境美化の啓発に寄与していきたいと考えて
います。



【小中合同津波避難訓練と浜田地区防災訓練】

本年度9月には初の試みとなる「浜田小・港中合同津波避難訓練」が、11月には「浜
田地区防災訓練」が地域の皆さんの協力のもと実施することができました。

これまで避難場所は小中ともに違う場所に設定されていましたが、津波の際には、保
護者への引き渡しを考えると、同じ場所（中央公園）にすべきと考え小中の通学路に地
域や民生児童委員の方々の見守りをお願いしました。

市民公園で解散したのちには、中学生が小学生とともに各地区へ集団下校する様子も見られました。

また11月の地区防災の日(土曜活動)には、中学生が避難経路点検についてまとめ、発表したり、炊き出し訓練のお手伝いをするなど、防災の担い手としての意識の高揚を図ることができました。本校生徒の活躍に、自治会役員や地域住民の方から、お褒めの言葉をたくさんいただきました。



(2) コミュニティスクール(運営協議会)の取組による効果

CSの委員の皆さんは常に学校と家庭・地域の関わりを深めることを考えていただき「地元の学校を誇りにしたい」という気持ちでいてくれます。本校では、この気持ちに応えることができるよう、授業参観・学校行事・全国学調等生徒の実態を把握していただくように努めることができました。併せて「学校評価」を実施し、PDCAサイクルを有効活用しながら、学校教育活動をより良いものとなるよう尽力できました。学校⇔地域の双方の活動を共有しあい「地域のこどもは地域が育てる」を基本に「港中学校区」でよかったと思える生徒づくりに貢献できたと思います。

3 今後に向けて

家庭⇔学校⇔地域という関係性になってはいないか。学校を基点にした取り組みだけでなく、地域と各家庭の深い結びつきが必要に思います。マンション・アパート住まいが目立つ中で、地元愛を深める手立てを考えていく必要があるといえます。また5つの連合自治区を担当する、地区市民センターとの関係性は、他地区とは異なるかもしれません。行政機関を再構築することは難しいとは思いますが、この地区は新しいものと古いものが混在する魅力的な町です。「温故知新」を武器にして、新しい学校づくり、地域づくりに努めていきたいと思えます。

別紙B

令和元年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立港中学校

委員長 木村 高敏

校長 加藤 公章

月	協議会の開催	活 動 内 容
4		
5	第1回運営協議会 5/8	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクール運営協議会規約 ・令和元年度の組織 ・令和元年度学校づくりビジョンの説明と承認 ・令和元年度年間計画と活動方針の検討
6		
7	第2回運営協議会 7/1	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の学校行事及び教育活動の報告と評価 ・校内授業参観
8		
9	第3回運営協議会 9/12	<ul style="list-style-type: none"> ・本校体育祭参観 ・夏休み中の生活状況及び2学期当初の生徒の学校生活状況の報告 ・2学期開催学校行事の概要説明と参観依頼
10		
11	第4回運営協議会 11/1	<ul style="list-style-type: none"> ・本校文化祭参観 ・2学期教育活動の報告と今後の予定の確認 ・今年度の三泗音楽会や表彰などについて ・地域防災と学校防災の連携の在り方について
12		
1		
2	第5回運営協議会 2/10	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度学校行事及び教育活動の総括 ・学校アンケート結果及び考察と学校自己評価 ・学校関係者評価
3		